

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	第2回入間市公共施設あり方検討委員会
開 催 日 時	平成 26年12月18日(木) 午前9時30分 開会・午後0時00分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 C棟5階 503会議室
議 長 氏 名	安登利幸委員長
出席委員(者)氏名	入間市公共施設あり方検討委員会 委員 安登利幸 木内勝司 倉斗綾子 平林佳代子 山岡靖義
欠席委員(者)氏名	なし
説明者の職氏名	企画部副参事(総合政策担当)鳥山政之 企画課主幹 浅見泰志 企画課副主幹 増田暁伸
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開会 2 議題(公開) (1)入間市の公共施設の課題と特徴について (2)これからの公共施設に求められる機能に対する基本的な考え方について (3)公共施設マネジメントに向けたアプローチについて 3 その他 4 閉会
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	1 第2回入間市公共施設あり方検討委員会 次第 2 第2回入間市公共施設あり方検討委員会 論点整理
事務局職員職氏名	企画部副参事(総合政策担当)鳥山政之 企画課主幹 浅見泰志 企画課副主幹 増田暁伸
会議録作成方法	要点筆記

会議録(2)

議事の概要(経過)・決定事項

2 議題

(1) 入間市の公共施設の課題と特徴について

事務局から入間市の課題について、前回会議の意見を中心に確認した。

- 施設の再配置について
- 施設の長寿命化について
- 総括

- ・ 施設規模、施設適正量をどのようにとらえるか、どう配置して施設の縮減を図るかの考え方、地域バランス等を中心に検討していくべきである。
- ・ PPP・PFI等の民間活力をどの程度取り入れるか。

- 基本方針について

- ・ 財政状況について市民と危機感を共有し進めるべきである。
- ・ 一元的なマネジメントのため、市も縦割りではなく一括した管理運営が重要となる。

(2) 課題1「これからの公共施設に求められる機能に対する基本的な考え方について」

事務局より、論点①～⑦について詳細を説明し、意見交換を行った。

- 論点①～③について

- ・ 論点①については、機能の見直しは大きな方針を考えて、それにリンクする形で縮減・適正配置を考えていけば答えが出るのではないか。
- ・ 公共施設の見通しは、機能だけでなく、土地・建物・公共施設・インフラ全ての面から見る必要がある。
- ・ 公共施設の規模・配置については、市民ニーズに全て応えることはできない。予算・人口に応じて施設を縮減して見直さざるを得ない。また、市民ニーズの中の優先順位をつけ、必須なものから考えていく必要がある。
- ・ 「これからの公共サービスのあり方」というものについて、市民と行政が一緒になって考えなければならない。
- ・ 官民を含めて類似機能が沢山あるので、整理して無駄を削る検討が必要である。企業のグラウンド、図書館等、民間施設を利用できるのであれば利用する。
- ・ 計画と予算については、行政が受け持つ部分と民間委託という分担の明確化、財源についても基金の創設や PPP・PFI といった民間の活用を検討する。民間の運営思想を導入し、行政の縦割りの弊害をなくすことも重要である。
- ・ 施設ハードそのものは、コンパクト化し、出来れば多用途化を進める。また、部屋の区切りを変えれば何にでも使えるようにする。
- ・ 論点②については、これまで行政は市民ニーズに対応することが基本姿勢だったが、今後は生きていく上で有益なもの以外は市民ニーズをカットし、施設総量の最適化の方に大きなウエイトをかけていく必要がある。

議事の概要（経過）・決定事項

- ・生涯学習のパンフレットをみると、カラオケ教室やダンス教室が沢山ある。こうした活動も確かに必要であるが、これからも公共施設で行う必要があるのかという疑問がある。
- ・各地区の要望を研究し、要望項目、バランス、利用頻度を調査し、類似しているものは検討が必要。
- ・公共施設の適正配置を考えるには、対象人口や施設までの交通手段などを考慮する必要がある。また、住民同士のつながりを大切にし、既存施設利用者の分断を避けるなど市民への配慮も必要である。小布施町では、合併以前の地域の伝統を継ぐなど意見を聞いたろうまくいったという例もある。
- ・それぞれの自治体が公共施設をフルセットでもっているが、フルセットをやめる。大きなグラウンドは〇〇市、大きな図書館は〇〇市など分担し予算の効率化を図った方が良いのではないか。
- 〈進行〉機能の見直しについては必要なものに限定していく。施設の縮減についてはやむを得ない。適正配置については、歴史的な地域の特性や伝統を考慮する必要があるという指摘だった。
- ・論点①については、3本柱にするのではなく、どれか一つが目的、背景の部分で残る2つを手段という形で構成した方が良いのではないか。行政サービスの適正化が目的という話があったので、例えば機能の見直しにするのであれば、見直し方について、現状もしくは今後の予測されている人口、ニーズに適正化していく方法がひとつ。あるいは、将来の市のビジョン・政策に沿って見直すのであれば、中身が変わってくる。どちらを選ぶかでそのほかの論点も色が変わってくる。
- ・論点②は、総量縮減を目的にするのであれば、方針の中に数値目標を盛り込んでしまった方が、その後の計画を進めやすいのではないか。
- ・優先順位も、先ほどの機能の見直しをどちらの方向にするか、今の状況を見てやらなければならない優先順位をつけるのか、今後の入間市のやっていきたい方向性について優先順位を付けるのかという点が大きなポイントとなる。
- 〈進行〉どれかが背骨で、その他は手段だということだが、目的として施設総量の縮減は見えやすいと思うがどうか。
- ・個人的には、実態を見ていると施設総量の縮減は切迫感があるので、施設総量の縮減が目的で、機能の見直しや適正配置は手段という風に思うが、現状施設配置が偏っているのであれば、それが目的にもなりうる。
- ・川越市のあり方に東洋大学が取り組んでいるが、市民アンケートを取ると市民は冷静で合理的に判断する。
- ・公共施設全体でみたガバナンスと個人の小さいニーズは別に考えた方がよいのではないか。

議事の概要（経過）・決定事項

- ・施設ひとつひとつに対して本当に必要なのか、削減できないかという事を、市民も一緒になって考えるべき。9 地区にそれぞれあるのは理想だが現実的には無理だと思うので、市が主として運営していく施設で、費用のかかる施設は無くしたり統合していく。最終的には入間市民が穏やかに暮らせることが一番の目標だと思うので、それに向けてみんなで考えていくことが必要。
- 〈進行〉市民に意見を聞く形はどのようなものが良いか。
 - ・誰でも言いだしっぺになるのは嫌なので、基本的には行政が考え、出てきた意見に乗っからせる。実態をわかってもらうためにそういう場を設けたりして、市民も一緒になって考えてもらう。
 - ・統廃合について、学校は一番地域に根ざしていて、他の自治体でも公共施設は平均すると4割が学校。そこに集約化していくと各地域に機能は残るということで、歴史的な配慮もできるのではないかと思う。
 - ・行き届かないところは、川越市の100円バスのように、受益者負担も含めて調整がいると思う。
- 〈進行〉優先順位について、現在のニーズか将来のニーズかという話があったがそれについての意見はどうか。
 - ・将来ニーズを先取りする活動にウエイトをかける。生涯学習という名でくくると見えにくいですが、趣味的なものは順位を低くしても良いのではないか。
- 〈進行〉趣味には受益者負担の考えを導入するというのはどうか。
 - ・得だから使っているのだから、公共のあり方を考えたら、市にはお金がないから趣味の活動には自分のお金を使うべきとすれば納得するのではないか。
 - ・施設に年間どれくらい費用がかかっていて、1人当たりの利用者では1回いくらかというデータをもっと市民に伝えれば、いたずらな反対は出ないのではないか。
 - ・優先順位については、いずれにしても優先すべき機能が決まったら、考え方や予算キャップを設定し、市の方針に従った統廃合のモデルを示して、コミュニティごとに精査していく。条件をそろえた中で、地区にとって一番良い統廃合や配置のあり方を一緒に考えていくという事であれば、それぞれのコミュニティごとの優先順位が出てくるのではないか。
 - ・高齢化に伴って高齢者のニーズが大きなウエイトを占める。それを維持するのも優先となる。
 - ・老人福祉センターは、今までの費用の半分で民間委託し運営していく。高齢者の憩いの場やコミュニティの場として必要であるが、優先順位としては上であっても民間委託できるものもあるのではないか。

○論点④・⑤について

- ・論点⑤は、利用者の管理、施設運営をしっかり行うことで効率性を向上できる。
- ・既存施設の利用者の振り分けとして、こういう内容なら古い施設の方に行っていく

議事の概要（経過）・決定事項

ださいというように、指導的な立場で言うのが良い。

- ・ 論点④の長寿命化については、ゼロになるわけではなく、費用はかかる。ただ建替えよりも安い。その後数年後や十数年後に建替をすることになる。全部の施設を対象にするのではなく、それぞれの施設の状況に応じて実施する。
 - ・ 長寿命化について青木茂先生によると、長寿命化は、元々の骨組みの精度によるが、階数を減らすなど軽くする方法で改修すればかなり持つという話があった。技術的な普及は今進められていると思う。ただ懸念しているのは、建設費が高騰しているので、シミュレーションが合わない。今後の社会情勢に応じることができよう幅を持たせることが必要である。
 - ・ 論点⑤は、学校がターゲットになる。理由としては、少子化が進み余裕教室があること、建て方がハモニカ型でほぼスケルトンになっており、転用しやすいことがある。子供のためになるような複合化にしていくべきである。
 - ・ 既存施設の有効活用については、公民館やコミセンなどの貸室機能の施設は、時間帯が3区分くらいになっているが、実際は1・2時間しか使っていないかたりしている。もっと、細かい時間区分で借りられるように、貸し方、運営の工夫で稼働率を上げるなどの有効活用も考えられる。
 - ・ 論点④は、ハードの問題で、統合する施設はあまり費用をかけないなどの対応策があると思うが、問題は今ある施設を使うときにどのレベルまで改修して使うか、ということである。
 - ・ 論点⑤の民営化は大賛成である。公設民営で運営は民に任せる。民に任せる時にお金を取るのがいい。公民館も有料化したら効率的に使うようになる。1、2時間単位で安くなれば市民も節約するようになる。もっと利用者に任せた運営もできるのではないか。
 - ・ 公民館の使用ルールが多すぎるが、柔軟な運営によって利用率を上げる方法もあるのではないか。
 - ・ 所有が公共か民間か、運営が公共か民間かという選択肢がある。施設が集約化等できなくなってしまうたら、民間から借りて公共が運営するという事もできる。
- 論点⑥・⑦について
- ・ 論点⑦については、民活では丸投げと第三セクター方式は破たんした例が多いので避けた方がよい。今後の手法としては、市民参加を促し市民主体の事業として事業化することを検討した方がよい。
 - ・ 規模や考え方が違うのでうまくいかないところもあると思うが、目標とするところが同じであれば、近隣市町村との連携は可能だと思う。循環バスなどもそれぞれの市町村だけでなく全体を回るなどして、一緒に使えるような検討が必要ではないか。
 - ・ 論点⑥については、一方は対象となる近隣市と入間市の大規模施設を比較し共用

議事の概要（経過）・決定事項

化し、他方は、自治体にテーマをもたせてそれぞれ重点的に整備していくことをすれば、市民交流も生まれるのではないか。県立施設が市内にどれくらいあるかのチェックも必要である。

- ・ 論点⑦について、他自治体ではクーポン券や利用料金をサポートしているところもある。例えば公共施設で活動は行えなくなるが、提携しているカラオケボックスで使えるクーポン券を配布するなどすれば、不満が出ないのではないか。また、民間企業誘致にもつながる可能性もある。
- 〈進行〉クーポン券の話があったが、銭湯などのイメージがある。
- ・ 銭湯は、例えば老人福祉センターなどお風呂のサービスを提供している施設がある。高齢者が安全に入浴を出来るというサービスの提供は今後必要だと思うが、そのために施設を沢山設置するのは難しいので、クーポン券等はある意味納得のいく解決策だと思う。
- ・ 論点⑥は、将来一つになるにしても、その前に連携があると思う。本館・分館みたいな関係をつくり、まずは連携した運用により予算・維持管理費の削減をすることも必要である。
- ・ 論点⑦は、どこまで予算化ができるかで厳しい選択になるが、PPPは公共財産やコストに応じて選ばれてしまうのではないか。
- 〈進行〉PPPは公民連携、RO＝改修と維持管理を民間というのも事例としてある。また、他市との乗り入れの時に料金差はつけるべきか。
- ・ 個人的にはつけない方が良いと思う。地域というものを広げてみんなで一緒に、と考えたい。他市の人利用に差をつけると、自分の市で建ててほしいというニーズが生まれてしまうのではないか。
- 〈進行〉事務局からインフラについても意見を、という依頼があった。道路や橋なども費用が結構かかっているの、こちらも重要な問題である。
- ・ 道路について、高速道路は有料だから公団でできているが、普通の道路でもできるのではないか。現在は直営だが、どんどんアウトソーシングして将来的には人事以外は全て民に託すという方向性も考えられる。
- 〈進行〉長崎県の諫早市で、^{みちもり}道守というのを民間に委託している。
- ・ 江戸時代等の道普請と同じようなものではないか。集落単位の道は自分たちで維持管理する。税金はそのため納めているので役所が費用を出す、自分たちで工事をする。
- ・ 自治体名は不詳だが、道路工事を個別にやると割高になるので、一年間の工事箇所と工事計画を業者に提案させ、一年間決まった額で市の中の道路を整備させるという取り組みをやっていると聞いた。これまでやってきたインフラ整備のやり方を見直すことも良いのではないか。

議事の概要（経過）・決定事項

(3) 課題2 公共施設マネジメントに向けたアプローチについて

事務局より、次回第3回会議で基本方針素案を示す予定であることを説明した。また、論点⑧については方針の進め方なので次回会議で議論する予定であることを説明し、論点⑨～⑪について意見交換を行った。

○ 論点⑨～⑪について

- ・見通しは30年先まで考えるが、計画としては10年ごとにして公共施設(建物・土地・河川・橋りょう)ごとにつくってはどうか。
- ・市民への周知を経て意見聴取の方法は、市報、公式ホームページ、パンフレット、パブリックコメントなどで実施し、検討委員会でとりまとめる流れをつくれれば良いのではないか。
- ・評価・改善方法は、10年間スパンで、何をもって評価するか、目的に合致するような評価要素を予め決めておき、評価時期も年間や四半期などとする。事業や計画の達成度・整合性が分かりやすい仕組みをつくる必要がある。
- ・資金調達は、民間からの寄付、PFI、基金などを政策にリンクさせ資金活用計画を作成する必要がある。
- ・施設の再配置計画については、全体計画と地区で選べるものと分けて計画した方が良い。計画策定の時に基本的な考え方、原理原則を明記して、それに沿って全体計画ができたと示し、地区については一部地区の人が選べるものもあるという計画を策定するのが良い。
- ・細かい部分は、市民が自分のものとして考えられるようにして、公共・公正・公平にみるとどうかと明確にし、行政はまとめるというスタンスの計画なら反対できないと思う。
- ・計画を10年ごとに刻むのは良い。最初の10年は結構細かく、施設名称なども具体的に出し、その先はもう少し振れ幅のあるもので良い。「ここに到達するために、最初の10年間はこうする。」という示し方が大事である。方針や計画のスパンは老朽化、財政状況によって決めていく必要がある。

3 その他

- ・次回会議で最適化基本方針の素案について検討を予定
- ・次回会議は1月26日(月)午後の予定

議事の内容を末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

27年2月9日

議長 の 署名

安 登 利 幸